

琉球大学学術リポジトリ

教育実践力をはぐくむ模擬学校

－「コックさん学校2011」の取り組み－

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2012-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 萩野, 敦子, 山城, 康一, HAGINO, Atsuko, YAMASHIRO, Yasukazu メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/25576

教育実践力をはぐくむ模擬学校

—「コックさん学校2011」の取り組み—

萩野敦子・山城康一

Experience of the mock school raising educational leadership

—Measures in “Kokku-San Gakko 2011” —

Atsuko HAGINO・Yasukazu YAMASHIRO

1) はじめに—「コックさん学校」の沿革と「コックさん学校2011」—

本稿は、平成23年度に教育学部において展開された事業「コックさん学校2011」の活動を紹介し、その存在が学生たちにもたらすプラスの影響をアピールするものである。後述するように19年度以来継続されている「コックさん学校」は、22年度までは外部資金に拠っていたため各々の事業報告書に活動内容を示すことができたのだが、それがなくなった23年度については、本紀要の場がそれをするに相応しいと判断したためである。

「コックさん学校」は、学生が「先生」として運営を務める模擬学校（プラクティススクール）である。19年度に始まった取り組みであるが、もとは25年度の大学4年生（22年度入学生）より必修化される「教職実践演習」の試行事業であった。琉球大学教育学部が「教職実践演習」の実施内容を模索するなかで、模擬学校という形態がその演習の目的を最適化するものであるという仮説のもと、「平成19年度文部科学省教員養成改革モデル事業／（テーマ区分）教職実践演習（仮称）の試行」に「教員養成最終段階におけるプラクティススクールによる総合的力量的形成とその明示的な確認に資する事業」の名称で申請し、採択された（注1）。この事業において模擬学校なるものを創設するにあたり、事業の中心であった先生が「うち1校は基幹教科である国語と算数をベースにした学校とする」と具体的な方針を示されたことから、学校教育教員養成課程の国語教育専修と数学教育専修の学生が中心となって「とにかくやっ

てみよう」と手探りで活動は始まった。まず学校名から考えなければならない。校長（もちろん学生である）を中心に検討し、「国語のコク＝コック」と「算数のサン」で「コックさん学校」と名付けた。あまりのシンプルさに最初は笑ってしまったが、5年を経過した今、ここまで継続できた立役者の一つは「小学生にもわかりやすい」この名称ではないかと思える。イラストを描くのが得意だった参加学生が研究室ですさび描きした「右手に筆」「左手に三角定規」を持つ「コックさん」の絵が、これまたわかりやすくかわいいので何枚もコピーを取ってあちらこちらに貼っているうちに、結局そのまま「コックさん学校」のロゴマーク（後掲）として定着することになった。

ほとんどウォーミングアップなしに始まる慌ただしさだった19年度の模擬学校の取り組みは、しかしながら一定の評価を得られたようで、本学部は翌20年度から22年度までの三ヶ年間、「模擬学校（プラクティススクール）による教育実践力向上モデルの開発」という事業名で「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に取り組むこととなった（注2）。19年度から数えると四ヶ年のあいだにのべ21の模擬学校が立ち上がり、それぞれに好ましい成果を挙げたが、「コックさん学校」は唯一の皆勤学校である。

なお、「教育GP」での模擬学校の取り組みを学生の取得単位に反映させるため、本学部では同時に（20・21年度入学生のみではあるが）自由科目「教職実践演習」を開設した。単位を取得したい学生は、この「教職実践演習」履修という形で「コックさん学校」に参加できる。ほかに、「総

合演習」や「模擬授業」といった科目の履修に宛てることも可能とし、学生に具体的な見返りがあるようにしている。ただし、学生たちの様子を見るに、「コックさん学校に参加すること」に意義を見出しているのであって、単位には「もらえるのならば」という程度の執着しかないようである。基本的に「コックさん学校」は、義務としてではなく「やりたいからやる」学生によって担われてきた。

さて、外部資金を基盤にした四ヶ年の最後の年の「コックさん学校」を終えたとき、学生たちの最終レポートに「来年もぜひコックさんに参加したい」の声が少なからず見られた。しかしこの時点で、世話役を務めてきた大学教員側には、「コックさん学校」を25年度以降の「教職実践演習」の1クラスにする意思はなくなっていた。四ヶ年の経験から「コックさん学校」は、「教職実践演習」が目的とする最終的な「確認」よりは、教職課程を歩んでいくなかでのモチベーションやスキルの着実な向上のほうに資するのではないかと確信できたからである（注3）。また、本稿で「コックさん学校」の実際の活動を見ていただければわかるが、きわめて手作り度の高いこの取り組みは、教具や記録保存等のための最低限の資金は必要ながら、大きな外部資金がなくとも草の根的に継続していけるものである（そして、教育活動とは本来的には、そうあるべきだろう）。このような理

由から、23年度のはじめ、学校を運営するに不足のない数の学生たちがやる気を見せていることを確認したうえで、教育学部長に裁量経費からの支援をお願いし、外部資金とも「教職実践演習」とも基本的に関わらない、オリジナルの教育学部事業として5代目の「コックさん学校」＝「コックさん学校2011」を立ち上げた。

言うまでもなく、五ヶ年にわたり「コックさん学校」が継続できたのは、学部教員の指導の賜物ではなく、継続して参加する学生が常にいて、新規加入の学生をリードしてくれたからである。初代の立ち上げ以来「コックさん学校」に参加した学生はのべ71名（12・11・13・18・17）であるが、その実数は51名である。複数年にわたる参加学生が多く、そのことにより自然と出来上がった「コックさん学校メソッド」のようなものが、継続を支えてきた。参考までに、この51名が参加した年を表にして次頁に示してみる。（なお△とあるのは正式メンバーではないながら、活動にしばしば顔を出していた学生である。）

ちなみに、この原稿を作成している段階で10名ほどがさらなる継続参加の意欲を見せており、「コックさん学校2012」の下準備と新規参加学生の募集を始めている。

ここで、「コックさん学校」の基本的な理念を、学生たちが児童募集の折に子どもたちに配布した案内文からの引用によって示しておく。

琉球大学教育学部では平成19年から毎年、秋から冬にかけて、「子ども大好き！」な学生たちが「先生」をつとめる「コックさん学校」を開いています。

料理教室のような名前ですが、「コック」は「国語（こくご）」・「さん」は「算数（さんすう）」、合わせて「コックさん」です。「コックさん学校」では、4年生のみなさんを対象に、遊びの要素を取り入れながら、楽しく国語と算数の授業をおこないます。楽しみながらも、今まで習ってきた国語と算数の知識を確認し、それを応用する力を育てていきたいと考えています。今年度は下記のスケジュールで、長田小学校・志真志小学校・琉球大学附属小学校からお友達を40名ほど集めて、17名の先生（学生）たちが、親身で丁寧な指導をします。

国語や算数が得意な子だけでなく、苦手な子も「大歓迎」です！土曜日のひとときを、やる気いっぱい先生（学生）たちと一緒に過ごしてみませんか？

入学年(所属・男女の別) 姓・名イニシャル	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
16年度入学(国語教育・女子) U・K	4年○				
16年度入学(国語教育・女子) U・T	4年○				
16年度入学(数学教育・男子) D・T	4年○				
16年度入学(数学教育・男子) H・H	4年○				
17年度入学(国語教育・女子) I・Y	3年○				
17年度入学(国語教育・女子) U・C	3年○	△			
17年度入学(教育学・男子) I・F	3年○				
18年度入学(国語教育・女子) K・M	2年○	3年○			
18年度入学(数学教育・女子) E・H			4年○		
18年度入学(数学教育・女子) S・M			4年○		
18年度入学(数学教育・男子) T・T			4年○		
18年度入学(数学教育・女子) M・S			4年○		
18年度入学(教育学・男子) O・Y		3年○			
18年度入学(教育学・男子) O・M		3年○			
18年度入学(学校心理・女子) A・S		3年○			
18年度入学(学校心理・女子) K・Y		3年○			
19年度入学(国語教育・女子) I・M			3年○		
19年度入学(数学教育・女子) N・R	1年○				
19年度入学(数学教育・女子) N・K	1年○				
19年度入学(数学教育・女子) H・H	1年○				
19年度入学(数学教育・女子) Y・E	1年○	2年○			
20年度入学(国語教育・女子) N・Y				3年○	
20年度入学(社会科教育・男子) A・Y		1年○		3年○	
20年度入学(社会科教育・女子) M・Y		1年○		3年○	
20年度入学(数学教育・男子) O・J		1年○	2年○	3年○	
20年度入学(数学教育・男子) Y・F		1年○	2年○	3年○	
20年度入学(理科教育・女子) T・M		1年○		3年○	
20年度入学(教育学・男子) I・M			2年○	3年○	
20年度入学(学校心理・男子) S・Y		△	2年○	3年○	
20年度入学(学校心理・女子) T・C				3年○	
21年度入学(教育実践学・男子) A・D			1年○	2年○	3年○
21年度入学(教育実践学・男子) M・S			1年○		
21年度入学(教育実践学・男子) M・Y			1年○	2年○	3年○
21年度入学(数学教育・男子) T・T				2年○	3年○
21年度入学(理科教育・男子) K・R			1年○		
22年度入学(教育実践学・女子) T・A				1年○	2年○
22年度入学(教育実践学・女子) M・A				1年○	
22年度入学(教育実践学・女子) N・M				1年○	
22年度入学(教育実践学・女子) Y・W				1年○	2年○
22年度入学(数学教育・女子) C・M				1年○	2年○
22年度入学(数学教育・男子) O・Y					2年○
22年度入学(数学教育・女子) T・N					2年○
22年度入学(理科教育・女子) U・C				1年○	
22年度入学(理科教育・女子) S・N					1年○
23年度入学(教育実践学・女子) U・M					1年○
23年度入学(数学教育・女子) K・Y					1年○
23年度入学(数学教育・男子) O・K					1年○
23年度入学(数学教育・女子) A・M					1年○
23年度入学(数学教育・女子) J・K					1年○
23年度入学(理科教育・男子) Y・K					1年○
23年度入学(技術教育・男子) N・Y					1年○
23年度入学(自然環境・女子) O・R					1年○

このように「楽しく学ぶ」がコンセプトであり、学生たちはそれを実現するために、教科書にとらわれない、しかし募集対象である4年生の学習段階を十分に意識した授業を、創造してきた。

なお「コックさん学校」の活動は、最大限に学生の主体性を優先・尊重しているが、物品購入や使用教室等の確保など、ハード面は大学教員が担わざるをえない。「コックさん学校」では、「世話役」という言い方でその立ち位置を示している（学生たちは、「先生の先生」＝「大先生」となかば冗談をまじえつつ呼んでくれる）が、それに当たってきたのは、19年度は萩野敦子（国語教育専修所属）と吉葉研司（当時は教育学専修、現在は子ども地域教育コース所属）、20年度以降は萩野と山城康一（数学教育専修所属）である。

世話役が担う最大の責務は「学生・児童に事故のない活動となるようにすること」であるが、具体的な仕事の主だったところは次のとおりである。

【事務的な仕事】①学校立ち上げにあたっての学生への呼びかけ ②児童募集対象校との交渉、学生の引率 ③物品購入 ④使用教室等の確保 ⑤児童の保険加入の手続き（掛金600円の短期保険利用）⑥映像・写真等の記録と保存

【学生への指導】①授業づくり及び事後における、教科指導者としての助言 ②学校運営全般に関するバックアップ・指導助言（たまに叱責）

③個々の学生に対する心理面のバックアップ

逆に言えば、これら以外の仕事は基本的に学生自身によって担われる、学生の主体性と行動力に成否の行方がかかっているのが、「コックさん学校」なのである。

II) 「コックさん学校2011」の活動内容

II-1) 学校の概要

参加学生と校務分掌は下表のとおりである。

所属・学年・男女の別	校務分掌	所属・学年・男女の別	校務分掌
教育実践学・3年・男子	校長	教育実践学・1年・女子	記録
教育実践学・3年・男子	副校長	数学教育・1年・女子	広報
数学教育・3年・男子	学務	数学教育・1年・男子	学務
教育実践学・2年・女子	国語主任	数学教育・1年・女子	広報
教育実践学・2年・女子	連絡	数学教育・1年・女子	記録
数学教育・2年・男子	保健・安全	理科教育・1年・男子	特別活動
数学教育・2年・女子	副校長	技術教育・1年・男子	特別活動
数学教育・2年・女子	算数主任	自然環境・1年・女子	広報
理科教育・2年・女子	特別活動		

校務分掌のうち、校長・副校長以外の役割を説明しておく、「国語主任」「算数主任」は、カリキュラムのバランスに配慮して授業計画を立てる際の中心的役割を担い、それぞれの教科に必要な教具を取りまとめて世話役に依頼する。「学務」は、学校通信の発行や児童の出欠把握を行う。「連絡」は、教員間での主としてメールによる発信・連絡を行う。「保健・安全」は教室の清掃や救急箱の管理、児童の登下校における監督など。「特別活動」は、開校式・卒業式・お楽しみイベントを企画運営。「記録」は、活動時のビデオ・写真撮影（こ

れは世話役が行っているが、世話役が不在の折などに代行する)。「広報」は、「コックさん学校」の活動内容を学部掲示板で紹介するポスターづくりなど。これらの校務分掌は、毎年前年度までの様子を踏まえて、学生たちで必要なものを設定している。

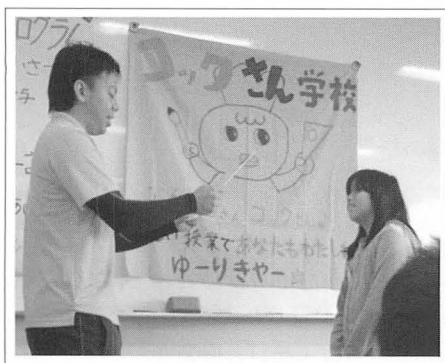
「コックさん学校2011」では参加児童を、教育学部附属小学校・宜野湾市立志真志小学校・宜野湾市立長田小学校より募集した。全38名の内訳を示しておく。

	男子	女子	合計
教育学部附属小学校	6	7	13
宜野湾市立志真志小学校	4	7	11
宜野湾市立長田小学校	5	9	14
合計	15	23	38

Ⅱ-2) 活動の概要—日程とタイムスケジュール— 活動の全容を月ごとに示すと、以下のとおりである。

月	活 動
4月	経験学生に「コックさん学校2011」設置の意思を確認。 参加学生募集（ポスター掲示・チラシ設置・説明会）と参加学生の決定。
5月	今後のおおよそのスケジュール（開校期間など）と児童募集方針の決定。 校務分掌や学校目標など、「コックさん学校2011」の基盤づくり。
6月	イメージカラーに合わせた学校旗づくりとユニフォームのデザイン決定・発注。
7月	実施したい授業内容を発表し合い、カリキュラムの調整。
8月	第一次指導案検討（指導案といっても構想段階のものが中心）。
9月	3小学校にて宣伝活動（ポスター・チラシを持参し、各クラスで口頭でも宣伝）。
10月	参加児童の確定と、彼らへの「コックさん学校2011・入学案内」作成と配布。 第二次指導案検討（具体的な授業内容を練り上げていく）。 開校の準備（式典の準備、名札やネームプレートの作成、出席簿の作成など）。
11月	「コックさん学校2011」開校＝5日、12日、19日、26日に実施。 開校日の活動のほか、その準備のため火曜・金曜昼休みに定例打合せ。
12月	「コックさん学校2011」＝3日、11日（この日のみ日曜開校）、17日、24日。 卒業式の準備（式典の準備、卒業証書作成、記念品の準備など）。 開校日の活動のほか、その準備のため火曜・金曜昼休みに定例打合せ。
1月	総括の会。卒業記念の写真やファイルを児童に返却する準備もおこなう。
2月	3小学校に出向き、上述の写真等を直接児童に手渡す。 最終レポートの提出。

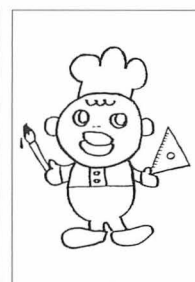
学校旗



ユニフォーム



ロゴマーク



準備段階でイメージカラーを決め、それに合わせたユニフォーム（児童や保護者がコックさん先生を見分けるための安全確保の手段ともなる）と学校旗を用意する。学校旗には今年度の学校目標「太陽さんさんコックさん♪楽しい授業であな^{てい}だ

もわたしもゆーりきやー☆」（「ゆーりきやー」とは「賢い人」を意味するウチナーグチ）が書かれている。

開校期間の日程表は次のとおりである。

	1	2	3	4	5	6	7	8
日程	11/5(土)	11/12(土)	11/19(土)	11/26(土)	12/3(土)	12/11(日)	12/17(土)	12/24(土)
場所	文系総合 研究棟 302	文系総合 研究棟 302	教育 学部棟 102	文系総合 研究棟 302	文系総合 研究棟 302	文系総合 研究棟 302	文系総合 研究棟 302	文系総合 研究棟 302
朝の会 (10:00~10:10) あいさつ/出席確認など								
1校時	開校式	国語 當間嗣貴 「秘密の手紙」	国語 大城裕司 「コック語辞典を作ろう！」	国語 下地直子 「同音異義語と仲良くなるろう！」	国語 友利文香 「うちなーぐち」	国語 1年次 「銅はどう読む？」	国語 新川大貴 「琉歌を楽しまう！」	国語 宮城安宏 「絵本の物語を作ろう！」
2校時	算数 新川大貴 「はやく数えよう！」	算数 棚原夏美 「積み木パズル」	算数 宮城安宏 「ことばで位置をあらわそう！」	算数 與座若夏 「人間コンピュータになろう」	算数 1年次 「四角形を仲間わけしよう」	算数 當間嗣貴 「石とりゲーム」	算数 知花麻由子 「もん切り遊びをしてみよう！」	開校式 (卒業式)
帰りの会 (11:50~12:00) 学校通信の配布/次回の予告/あいさつなど								

開校日のタイムスケジュールは、おおむね次のとおりである。

08:30 ~	教育学部本棟に集合、道具・教具などの確認、使用教室へ移動し設営
09:00 ~	職員朝会 (一日の予定の確認、授業者による座席配置の指示およびT.T.に対する学習内容の確認、学部教員による他者評価の割当ての確認など)
09:30 ~	授業の具体的準備、児童の出迎え、児童との交流など
10:00 ~ 10:10	朝の会
10:10 ~ 10:55	1校時
11:05 ~ 11:50	2校時
11:50 ~ 12:00	帰りの会
12:00 ~ 12:30	児童の見送り、教室の後片付け・清掃、会議場へ移動
12:30 ~ 15:00	昼食&職員会議 (本日の反省、次回の準備、指導案検討など)

このあと、学生によっては校務分掌として与えられた仕事を行うなどしており、開校期間の土曜日は一日がかりとなることが多い。

II-3) 国語の授業の記録

学生たちに「コックさん学校 2011」で行った国語の授業の内容をコンパクトにまとめたうえで

(実際にはそれぞれが丁寧な学習指導案を作成している)、各々の振り返りを書いてもらったものを、表にして示す。1は実施日と授業者、2は単元名、3は単元目標、4は児童の学習活動、5は主な教具、6は授業の振り返りである。最後に萩野の講評を掲げる。

1	11月12日 當間嗣貴（3年次）
2	秘密の手紙
3	折り句という言葉遊びを知り、自らが決めた頭文字に沿って意味の通った文章を組み立てる事ができる。
4	導入 ①教師が用意した秘密の手紙(折り句)を見る。 展開 ②折り句のルールを聞く。③実際に折り句を書いてみる。④作った作品を鑑賞する。 まとめ ⑤本時の内容が折り句と呼ばれるものであることを知る。⑥色々な折り句を見る。
5	谷川俊太郎の詩・ワークシート・色々な折り句
6	<p>導入で谷川俊太郎さんの折り句を見せ児童の興味を引こうとしたが、自分の想像よりも反応が悪かった。そのことで想像以上に焦ってしまい、折り句のルール説明の部分では教師が一方的に喋る悪い流れになってしまった。反省会で指摘されたが、説明の中にも児童の活動を含むために、掛け合いのなかでルールを確認していくべきだった。このことに関しては、完全に私のシミュレーション不足であったので反省したい。</p> <p>作品を実際に作る場面では、想像以上に手が止まる子が多く、T・Tに入った先生方に相当の負担を強いたと思う。具体的にどのような支援をすべきかを事前に練り上げきれなかったのが原因であったので、授業者である私の見取りの甘さだったと思う。</p> <p>授業全体として盛り上がり欠けるものであったが、当初より私がこだわっていた“静かな創作”という面はある程度達成できたと思うので、その点はよかった。今回上がった反省点を改善し、次回は児童が受け身にならない授業を目指していきたい。</p>

1	11月19日 大城裕司（2年次）
2	コック語辞典を作ろう！
3	言葉の意味を相手にわかりやすく伝えることができるようになる。
4	<p>導入 ①辞典から抜き出した説明文を見て何の説明をした文章なのかを考える。②めあて（学習内容）を確認する。※色々な言葉を辞典のように説明してみる。</p> <p>展開 ③例文で確認しながら文章を作るうえでの留意点をルールとして理解する。④グループごとに分かれて辞典の作成に取り組む。</p> <p>まとめ ⑤自分たちが作った文を発表し、きちんと説明できているのかを確認する。</p>
5	フラッシュカード・ワークシート
6	<p>自分の中で一番失敗したなと感じているのは、周りから見えてもそうだったと思いますが、最初の説明の部分で子ども達の沈黙に負けてしまい、あせってしまったことです。ただ後半、子ども達がしゃべるようになってからは落ち着いてできていたと思うので、授業前に沈黙はしょうがないと開き直れば大丈夫だと思いました。授業の細かい内容に関して言えば、反省会でも色々出ましたが、自分が同じ授業をもう一度やるなら個人作業にしてみたいと感じました。プリントの配布やその他児童へのサポートをTTに頼りたくて、グループにしましたが、そのせいで活動があまりできていない所もあったようなので、個人にした方がよいと思いました。時間的にも余裕はあったと思うので（余裕があったために時間配分を適当にしてみましたという反省もあります・・・）プリントの配布は自分で行い、TTには自由に動いてもらって子どもへのサポートをしてもらえば個人での活動も可能だったと思います。</p> <p>色々改善点はありますが、この授業をやったおかげで自信がついたことが一番の収穫だと思っています。</p>

1	11月26日 下地直子（2年次）
2	同音異義語と仲良くなろう！
3	<p>①同じ音で違う意味を持つ言葉の複数の意味を見つけることができる。</p> <p>②同じ音で違う意味をもつ言葉を使ってゲームを楽しむことができる。</p>

4	<p>導入 ①教師が黒板に貼りだしていく言葉を見て、あるなしクイズを解く。②答え合わせをし、答えをワークシートに記入しながら、同じ音で違う意味を持つ言葉を知る。③めあてと本時の授業内容を確認する。</p>
	<p>展開 ④同音異義語が五十音順にかかれた表を見ながら、個人で同じ音で違う意味を持つ言葉の複数の意味を探し、見つけたものはワークシートに記入する。⑤ゲームのやり方を確認する。⑥同じ音で違う意味を持つ言葉の中で、複数の意味を見つけた言葉を使って、しりとりをどれだけつなげられるかというゲームを5～6人のグループで協力しておこなう。⑦どのグループがどれだけしりとりをつなげられたか結果発表をおこなう。⑧教師が表に提示した言葉以外に、自分たちで同じ音で違う意味を持つ言葉を見つけたグループが、どんな言葉見つけたか発表し、他のグループが複数の意味を見つけ確認する。</p> <p>まとめ ⑨辞書を使うことで同じ音で違う意味を持つ言葉を見つけることができることを確認する。⑩授業の感想を書く。</p>
5	<p>ワークシート・フラッシュカード・同じ音で違う意味を持つ言葉の一覧表・提示用イラスト・国語辞典（提示用）</p>
6	<p>導入では、いつも静かな子どもたちが珍しく食いついてきたので、嬉しさを舞い上がっていたのと緊張から発表してくれた児童に対して、拍手することと座るように促すことを忘れてしまいました。また、板書計画通りに板書を丁寧に・スムーズにおこなうことが授業の始まる前の段階から出来ていなくて、もっと授業の流れのシミュレーションをする必要があったと感じました。展開部分では、私の言葉の使い方が下手で、活動することについてうまく説明できていなかったと自分でも感じていたので、グループを1つずつ回りながら分かっていない部分の説明をつけたしたり、一緒にやりながら説明したりしました。T・Tに入ったもらった先生方も各自でやりながら説明をつけ足してくれていました。そのおかげで、予想していた以上に子どもたちはしりとりをつなげ、自分達で新しく同じ音で違う意味を持つ言葉を見つけることが出来ていました。教室を回って子どもたちを見ていると、一緒に考え合い、教え合いながら、楽しそうに活動していたのでとても安心しました。でも活動の時間をどう終わらそうか戸惑ってしまったので、反省会で「活動するときは残り時間をカウントする」などの手立てをこれからうまく使っていこうと思いました。学習活動の⑧は予定していた活動ではなく、本来予定していたのは、一番しりとりをつなげたグループにつなげた言葉を一部発表してもらい、どんな言葉の複数の意味を見つけたのか全体で共有するという活動でした。しかし教室を回っていて、子どもたちが自分達で表以外の言葉をいくつか見つけだして使っていたので、それを全体で紹介して、見つけたグループ取り上げたかったことと、同じ音で違う意味を持つ言葉が提示した表にのっているものだけじゃないことを共有したいと思ったので、予定を変更しました。今回の授業で、授業のシミュレーションをもっと充実させることや、説明する力をつけるなどの課題を見つけること、また授業をやり遂げたことから自信を得ることができました。</p>

1	12月3日 友利文香（2年次）
2	うちなーぐち
3	うちなーぐちに興味を持ち、話すことができる。
4	<p>導入 ①「クワッチーサピラ」の号令で授業を始める。</p> <p>展開 ②うちなーぐちの単語クイズを各自で解く。③グループ内対抗でうちなーぐちのカード取りゲームをする。④グループで協力してうちなーぐちの単語を当てはめ、文を完成させる。⑤完成させた文を声に出して読む。</p> <p>まとめ ⑥「ゆーりきやー」の意味を確認する。⑦授業の感想を書く。⑧「クワッチーサピタン」の号令で授業を終える。</p>
5	うちなーぐちカード・「スイミー」うちなーぐちバージョン・ワークシート

6	<p>授業を「クワッチーサピラ」で始めたときに「あれ、いつもの挨拶と違う」と戸惑い、その意味を知ったときに納得する子どもたちの表情が印象的で、うちなーぐちに興味を持たせることが出来たという意味で、導入は成功したと思った。</p> <p>展開の共通語とうちなーぐちを一致させるクイズでは、方言が分かる子と分からない子の差がはっきりしてしまって、分かる子は早々とワークシートに記入して暇そうにしているのに対して、分からない子は鉛筆を全く動かしていない状況だった。T・Tは、分からない子にヒントを出してくれていたのでもっとも助かった。しかし反省会では、T・Tからもう少しこの時に時間を取って欲しかったと言われたので、先を急がずに、もっと子どもたちに考えさせる時間を確保すれば良かったと反省した。また、暇そうにしている子にはグループのお友達に教えてあげる指示を出すという手立ても必要だったと思う。カード取りゲームはとても盛り上がり、初めの語句を読み上げた時に子どもたちの必死にカードを取る姿を見て、この活動を取り入れて良かったと感じた。うちなーぐちを埋めて「スイミー」の物語を完成させる場面では、最初のクイズで全く鉛筆が動いていない子もすらすらと書けていて、ゲームを通して子どもたちに知識が身に付いているということを感じることが出来た。早く終わったグループは、T・Tの指示で文を読み合わせる練習をしていて、暇をしている子はいなかった印象だ。今振り返ってみると、本当に子どもたちの意欲的な態度とT・Tの臨機応変な対応に助けられた授業だったと思う。</p> <p>まとめでは、もうすぐで授業が終わるという安心感からか、何を言っているのか分からなくなり、一瞬「しーん」とした場面があったので詰めが甘かったなと反省した。しかし最後にみんな「クワッチーサピタン」と大きな声で挨拶が出来て、授業全体が締まったような気がした。</p>
---	--

1	12月11日 赤嶺未季・上野愛美・大城孝太・川満優希（1年次）
2	銅はどう読む？
3	形声文字の考え方を学び、その考え方を使って漢字の読みを推測することが出来る。
4	<p>導 入 ①二つにわかれた漢字を見て、どんな漢字なのか考える。「これらが示しているのはどんな漢字かな？」②両方の読み方が分かったところで、めあての確認をする。</p> <p>展 開 ③二つの漢字をよく見て何か気づくことはないか考える。④形声文字の説明を聞いて理解する。・意味を表しているところはどこだろう？・読みを表しているところはどこだろう？⑤形声文字は他にもたくさんあることをゲームを通じて確認する。・ババ抜き説明を聞く。・ババ抜きをして楽しみながら形声文字を覚える。</p> <p>まとめ ⑥形声文字についてもう一度確認する。⑦単元名の漢字を読んでみる。⑧感想を書く。</p>
5	手作りトランプ・フラッシュカード・ワークシート
6	<p>①私は展開を担当した。形声文字の性質を使い、今まで習ったことのない漢字を読んでみる。そして子ども達に形声文字についての説明をするという、今回の授業で一番の山場の部分だ。検討会では、すぐに答えるだろうという意見も多かったが、実際の授業では「なんて読むの？」といったようにシーンと静まりかえっていた。とても焦ったが、なんとか発問をかえ乗り切ることが出来た。授業の後の反省会でも、そこが指摘された。もっと違う発問がなかったのか。授業をやってみて初めて指導案検討が大事なものだ気づいた。発問についてもっと考えるべきだと反省が残った。さらに、子ども達に答えを見つけ出させるのではなく、私が答えを与えてしまったのでこれも反省点である。</p> <p>そのあとの授業はスムーズにいき、私たちが考えた「コックさんババ抜き」を子ども達はとても楽しそうにやっていて嬉しかった。授業の最後に「銅」という漢字を使って復習をしたが、トランプに書かれた漢字を使って復習すれば良かったかなと思った。けれど子ども達はまだ習ったことのない「銅」をきちんと読んでいたので授業の目標は達成出来たと思う。</p> <p>今回初めて授業をして、指導案検討会をして見えてきたこと、また授業を通して見えてきたことがたくさんあった。何回もの検討会を重ねても実際の授業シナリオどおりにいかないことが</p>

私の今回の大きな発見であった。さらに発問の仕方をもっと考えるべきだと感じた。今まで自分の中であいまいだったものが、少し形になって現れてきた。今回の授業の反省を生かし次に繋げて行きたいと思う。

授業が終わったあとも、子ども達はカードで遊んでいたのが全体的に見て、授業は成功だと思う。

②授業の準備段階から、はじめてのことがほとんどでとても難しかったです。しかし、先生方や先輩方、一緒に授業づくりをしている3人のおかげで、授業をすることが出来たと思います。授業検討会において、色々な指摘をうけて、自分たちの気づかなかったことも指摘をうけることができ、授業がどんどん変わっていき、難しかったのですが、すごく充実していました。

また、実際に自分の授業において、児童の前にたつと、周りをみる余裕などはなく、自分の話すことに夢中になってしまいました。児童の様子を見ながら、話すことはとても難しいことだけど、教師にとって大事な事だと思うので、これから課題として取り組んでいきたいと思えます。また、抑揚のある話し方や、笑顔をふるまうことができなかつたかなと思うので、これも課題として取り組んでいきたいと思えます。

コックさんの授業をとって本当に良かったです。忙しくて大変なときもありましたが、コックさんを通して、教師になりたいという気持ちがさらに大きくなりました。沢山勉強させてくれてありがとうございました。

1	12月17日 新川大貴（3年次）
2	琉歌を楽しもう！
3	①日々生活しているなかで、琉歌を身近に感じることが出来る。 ②琉歌を用いて、想いを表現できる。
4	導 入 ①『ティンサグヌ花』を聴き、今日は琉歌を作るという学習内容を確認する。 展 開 ②琉歌の決まり（本単元のみ決まり）を理解する。③テーマを知り、そのテーマのイメージを膨らませる。（テーマ：A 沖縄の良さ・B コックさん学校を伝えよう。） ④どちらかのテーマにしぼって琉歌を作る。 まとめ ⑤音楽にのせて発表する。⑥学習感想を書く。
5	ワークシート①②・ヒントシート・琉歌の貼物・ルールの貼物・音源
6	本授業の導入は、コックさん学校特有のとても贅沢な方法を用いた展開だったと思う。私は子どもたちに“本物”を感じてほしく、有紀先生と和也先生にお願いして三線の生演奏をしてもらった。授業者からの目線では、子どもたちの目や表情は少し恥ずかしいような様子だったが、うまく導入で「琉歌を作ろう」という、本授業の目標に道をつなげることが出来たように思う。 展開では、テーマを2つ設けて子どもたちが作品をつくりやすくなるような手立てを用いた。それ以外にもヒントカードを準備してさらに、子どもたちが作品をつくりやすくした。このヒントカードはとても作品作りにおいてとても有効だった。しかし、ヒントカードを最初の段階でみてしまいその枠の中でしか考えなくなってしまった子どももいた。また、作品を作れない子どもたちも最終的にでてしまった。 反省会ではヒントカードが有効的に使えた班と前述したような班がいることを知り、このヒントカード一つをとっても考えることが難しいものが浮き彫りになった。そして、やはり時間の設定が依然甘く、作品を作れない子どもたちに大変な思いをさせてしまった。また、琉歌＝曲のような印象を与えてしまった。琉歌の本質へ迫ることが出来なかつた授業だった。 琉歌自体がとても難しい教材だったこともあり1時間では厳しいものではあったと思う。しかし、挑戦したかつた教材であり、意外と知られていない沖縄の伝統文化なので教師にな

った際に実際にやりたいと思っていた授業だった。なので、私は反省なども含めてとても有意義な授業だった。
単元的な授業を新たに考えて、この琉歌を教材とする授業を上手く小学生相手にも行っていきたい。

1	12月24日 宮城安宏（3年次）
2	絵本の物語を作ろう！
3	①想像力を働かせて、物語を創りだすことができる。 ②積極的に物語作りに参加果化することができる。
4	導 入 ①児童の一人に『木のうた』を音読してもらい、文章のない絵本だということに気付く。②教師が作成したオリジナル絵本の読み聞かせを行う。③今日のめあてを確認する。（絵本の物語を作ろう） 展 開 ④物語作りのルール説明を行う。⑤物語の主人公となるものを考える。⑥時間を設定し、各場面ごとの物語を考える。⑦出来上がった作品を発表する。 まとめ ⑧今日の感想を書く。
5	絵本のコピー・手順を書いた模造紙・アドバイスカード・『木のうた』
6	この授業は、事前の準備不足で臨んでしまった授業だった。なので、多様な子どもの発言や行動への対応が上手く出来なかったほか、細かなところでの指示不足、ルールの徹底不足などが目立ってしまった。導入は事前の検討会でどのようにすればいいのか多く話し合っていたこともあり、子どもたちの食いつきもよく、うまく『木のうた』への興味を引き出せていたように感じる。また、その後の教師によるオリジナルの『木のうた』の読み聞かせもわざと注目されたいような「石」を主人公にしたり、できるだけ多くの表現を盛り込んだりすることにより、のちの子どもたちの考える活動の良いヒントになっていたように感じる。その後の物語作りの手順の説明で、しっかりと模造紙に書きだして視覚的に説明したまでは良かったが、教師の中であいまいな部分があり、そこがのちの子どもたちの制作活動の中で問題になってしまった。例えば「3分につき一場面しか書いてはいけない」ということを徹底していなかったため、3分で2、3場面分の話を考える子が出てきてしまった。そのことで、他の子が不快感を抱いてしまう結果を生んでしまった。教師はそのようなあいまいな部分もしっかりと確固としたものとして持つておかないといけないということを痛感した。その後は時間の都合上一人の子どもに作品を発表してもらい、感想を記入してもらい、授業は終了した。 その後学校訪問の際に、一人一人の書いた作品を教師自身がパソコンで打ち出して絵本のコピーに貼り、完成させたオリジナルの『木のうた』を児童一人一人に配布した。子どもたちの表情や受け取る場面を実際に見たわけではないが、喜んでくれたのではないかと考える。また、その絵本を見るたびに、今回の学びを思い出してくれるのではないかと考える。

【講評】今年度は対象児童40人規模の授業が7種類実施された。3領域1事項に分類すると「書くこと」が3種類・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が4種類なのだが、ほぼすべての授業に「話すこと・聞くこと」の要素が盛り込まれている。「読むこと」に相当する授業がないのは45分間の単発授業であるため仕方なからう。しかし、一見集中して見える「伝統的な……事項」の授業内容がバラエティに富んでいたため、バランスのよいカリキュラム構成であったと言える。「伝

統的な……事項」に絡めていけば、沖縄の地域性にこだわった「うちなーぐち」「琉歌」の授業が構想された点も、評価したい。

個々の授業の紹介は授業者自身の振り返りにゆだね、世話役からみた所感を授業実施順に簡単に述べておく。『秘密の手紙』は、いわゆる「折句」（たとえば「んばんのきはまんまるつきりと」には「こづく（コック）」がおりこまれている）を作る授業。児童に親しみやすい内容で、国語の最初の授業に相応しかった。『コック語辞典』

は、自分で言葉の説明文を作る授業。児童の個性が出て面白い。授業者自身は個人活動にすればよかったと振り返っているが、グループワークであることにより、子どもたちが知恵を出し合う姿勢もみられ、これはこれでよかったのだと思う。『同音異義語と仲良くなろう！』は、児童が考えやすいように予め同音異義語一覧表（プリントにせず全員で共有しやすいよう模造紙に書いた力作。「あさ」「あめ」……とひらがなで語彙だけ書いてあり、そこから「朝／麻」「雨／飴」といった異義語を発見するのは児童自身）を用意し、見つけた同音異義語をしりとりで幾つつながられるか？という知的活動とゲーム性のバランスが取れた楽しい内容だった。『うちなーぐち』は、児童たちが生きているこの沖縄のことばを大切にしたいという授業者の思いが詰まった授業。小学校国語科の定番教材「スイミー」の語彙を沖縄方言に変換した「うちなーぐちバージョン」を作成した工夫が光った。『銅はどう読む？』は、児童が六年生で学ぶ六書（象形・指事……）のうち「形声文字」を先取りした授業。先取りではあるが、彼らにとって既習の漢

字のみを用いたオリジナルのトランプを教具として用いることで、まさに「楽しく学ぶ」授業となった。担当の1年次にとっては授業そのものが初めての経験であるが、熱心に事前準備を進め、大成功を収めた。『琉歌を楽しもう！』もまた、ふるさと＝沖縄への思いが詰まった授業。単に八八八六の音数にそろえて文を作らせるのではなく、それを三線の伴奏を借りつつメロディーに乗せることによって、「うたは身体からあふれるもの」だということが体感できた。『絵本の物語を作ろう！』は、文字のない絵本に、児童自身が絵から引き出された想像力を働かせて、文章を作っていくというもの。指導案検討の段階から「難しいのでは？」という懸念があったが、児童たちはすすいと物語を創っていった。児童が発想しやすいように手立てを講じた授業者の力量と、「コックさん学校」で積み重ねた柔らかな学びの成果を実感した。

II-4) 算数の授業の記録

国語と同様に算数の授業内容を表にして示し、最後に山城の講評を掲げる。

1	11月5日 新川大貴（3年次）
2	はやく数えよう！
3	①数量の多いものを数える時の、様々な方法を考えることができる。 ②グループで協力して、数え方の方法を考えることができる。
4	導入 ①今日の授業は数えるゲームをすることを確認する。 展開 ②どの道具を使った方が、早くて正確に数を数えられるか考える。③道具を決め、実際に数当てゲームを行う。④総額が当たっているかグループの計算結果とどうやって数えたのか発表する。（タイムも計測）⑤グループの中で『ベスト・グループ』（個人票）を決める。 まとめ ⑥学習感想を書く。
5	大量の1円玉（1グループ600枚程度）・ワークシート・はかり・方眼用紙（厚紙）・筒・箱・ものさし・漏斗
6	導入では、コックさん学校最初の授業でもあることから、子どもたちがコックさん学校楽しく参加できるような授業にしようと、いきなり1円玉を見せるのではなく、音などの情報を与えどのようなものなのかを当てさせ、授業自体に興味を持たせるような手立てを用いた。何人かの子どもたちは食いついたものの、十分に時間を取らなかつたために、引き付けるのが不十分だったようだ。特に、子どもたちに「いったい何枚1円があるのか？」という疑問・好奇心を喚起させることがとても重要だったが、それも不十分になってしまった。やはりもう少し“間”“時間”を持つ必要があったようだった。 また展開でのゲームも、模擬的なゲームは行ったものの数えるための道具が、あまりにも抽象的すぎたため、数え方がうまく出来ずに時間が経過してしまった。やはり、道具の研究不足が大きな要因だったと思う。

6	<p>今回の授業は、展開の5は時間がなく行えなかった。私の大きな授業の誤りは、展開一つ一つに対する時間を少ない時間で見積もってしまったことだ。その要因として、小学校4年生の実態の把握しきれていなかったこと、そして授業の具体的な構想を思い描いていなかったことにある。</p> <p>しかし、子どもたちの様子、特に一人ひとりを見るようになるようになっていたことが、今回授業してみてわかった。</p>
---	---

1	11月12日 棚原夏美（2年次）
2	積み木パズル
3	<p>①具体的操作によって事物を多方面から見ることができる。 ②与えられた情報をもとに答えを導き出すことができる。</p>
4	<p>導入 ①はじめの挨拶②積み木を使った授業であることを伝える③約束事を伝える④めあての発表（「色々な方向から見てみよう！」） 展開 ⑤例題を解く（ワークシート）⑥ルール確認（ワークシート）⑦問題を解く（ワークシート、模造紙） まとめ ⑧何問解くことができたかを調べる⑨コツを見つけた人はいないか聞く（挙手制） ⑩めあての振り返り⑪感想記入⑫終わりの挨拶</p>
5	立方体（木材）・フラッシュカード・ワークシート・グループ作業のための模造紙
6	<p>導入時の約束事を伝える場面での子どもたちの反応がいまいちよくなくて少し焦った。授業前からの不安点がこの部分だったので自分の中ではよくシミュレーションをし、できる限りわかりやすい説明を考えていたつもりだったが、実際に子どもの顔を見ると思った以上に打撃をくらうものだなと実感した。予想していた子どもたちの「勘違い」を拾い、全体に共有できたことが反省会で評価されたのは嬉しかった。『子どものつぶやきから広げる授業』を目標にしていたので、まず1つのステップはクリアできたのかなと思う。例題を解かせてみても、やはり約束事を間違えて理解している子がいてこの授業は成立するのだろうかと本当に不安になったが、グループ活動で問題を解かせると「ああでもない、こうでもない」「それはルール〇番でダメだよ」などとても楽しく活気のある雰囲気になり、用意してある問題すべて解き終えるグループが2つも出た。これには驚いた。しかし、全問題を解くのに必要な積み木の個数を誤って計算していて、積み木が足りないグループが発生してしまった。教具の準備不足が反省点に挙げられる。それから子どもたちの意識が「早く解き終わる」ことに向いてしまい、「コツを見つける」という点がおろそかになっていたことが反省会で指摘された。これに関しては、作業に入る前に「グループでコツをいくつ見つけることができるかな？」などの声掛けをすることで子どもたちの作業の目的がずいぶん変わるのではないかというアドバイスをもらった。この一言があるかないかで授業のスタイルは大きく変わるのだなと感じた。まとめではこの問題を解くコツを子どもたちから集め、板書して目で見てみんなで共有できるようにはしたが、これを実際に解いた問題に適用できるかどうかを一緒に考える活動がほしかったという意見が反省会で多数挙げられた。「コツの共有」については授業時間を気にして省いてしまったのだが、子どもたちに様子を見つつ展開⑦を少し短くして臨機応変に対応できればよかったと思う。</p> <p>以上が当授業における大きな反省点で他にも細かい部分での反省はいろいろあるが、このような具体的操作を含む推論の授業では、最後に理論を子どもたちから拾い、それを全体で共有することが大切であるということを実感することができた。授業の直前まで不安だらけだったが、閉校式で「積み木の授業が楽しかった」と言ってもらえたときは涙が出るほど嬉しく、この授業をして本当によかったと感じた。昨年と比べて自分の成長を感じることができた内容だった。</p>

1	11月19日 宮城安宏（3年次）
2	ことばで位置をあらわそう！
3	①座標について知り、言葉で場所や位置を表すことができる。 ②積極的にことばさがしゲームに参加することができる。
4	導 入 ①事前に文字と数字のみが書かれたチケットを配布されており、それに示された場所に座る。②今日のためを確認する。 展 開 ③座標についての説明を受け、座標に関してのワークシートを解く。④数名の児童が前に出て解答し、その回答の答え合わせを行う。⑤ことばさがしゲームの説明を行う。⑥ことばさがしゲームを行う。 まとめ ⑦身の回りで座標が使われているものや場所を紹介する(将棋、映画館など)。
5	児童に配布するチケット・椅子に貼るチケット・ワークシート・例示用の盤・座席表・色つき囲い・大きな碁盤譜
6	この授業は、子どもたちはまだ習っていないが、普段何気なく理解している「座標」と言うものに目を向け、楽しく使うことを意識して考えました。まず初めに子どもたちの授業への意欲を引き出すために、また、無意識のうちに「座標」というものを使うことができているのだということを認識させるために、チケットによる座席の指定を行いました。そのことで子どもたちは座席表と自分のチケットを照らし合わせながら、楽しく「座標」に触れることが出来ていたのではないかと考えます。その後「座標」の説明をし、簡単な問題を解かせた後、ことばさがしゲームの説明を行いました。ルールが複雑なので、実際にT、Tの先生2人に実演をしてもらうなど工夫をしたのですが、子どもたちには理解できていなかった子ども半分ほどいて、その子たちにはゲームの最中に一人一人教えるといった形での指導になってしまいました。そこで時間を多くとってしまったということもあるので、ルールを説明をもっと簡潔に、且つ丁寧にもっとゆっくりと説明すればよかったなど反省しました。また、その後の身近な「座標」について紹介する場面で将棋と映画館について話したのですが、将棋に関して、あまりピンと来ていない子どもが大多数であり、その後に映画館の話をしたら「ああ〜」と納得した様子でした。その理由としては、やはり実物を用意していなかったということが大きいと思います。やはり子どもたちの考えを深めるためには、具体物の使用は効果的だと考えました。

1	11月26日 與座若夏（2年次）
2	人間コピー機になろう
3	グループの人と協力して、図形を作図することができる。
4	導 入 ①一つの絵を見て、それに対して3枚の絵を見て、コピー機でコピーするとどういう特徴があるのかに気づく。 展 開 ②ものさし、三角定規、コンパス、分度器の使い方を確認し、ワークシートに図形をかく。③人間コピー機のルールを聞く。グループごとに協力して、離れた場所にある1枚の絵を、メモ用紙を活用しながら、特徴を書き込み、作図する。④グループごとに答えがかかっているOHPシートを重ねて、答え合わせをする。 まとめ ⑤いろいろな作図ができたことを確認する。作図をするにはいくつかの条件が揃わないと書けないことを確認する。
5	提示する4枚の絵・ものさし・三角定規・コンパス・分度器・使い方を確認するワークシート・ルールを書いた模造紙・見本となる絵・答え合わせ用OHPシート
6	導入に対しての子どもたちの食いつきは良く、提示した絵を見比べて、コピーした絵についての直線・曲線や大きさについての特徴を挙げて、教師側が欲しい反応を返してくれた。しかし、展開①で各道具（ものさし等）の使い方を確認する場面で、教師主導で子どもたちもワークシートに作図しながら進めていく予定だったが、ワークシートの配布や子どもたち

6	<p>が作図するタイミングが上手いかず、発表させる予定もないのに作図の仕方を一人の児童に指名してしまい、自身のしたことに動揺してしまった。平行線の書き方を児童にさせた為に時間が長引き、その後の授業進行に影響を与えた。ワークシートに円と三角形が書けるようになっていて、子どもたちの発言からかきかたを例示する予定が、説明と共にかいて見せることになった。また、子どもたちがワークシートにかく時間を十分にはとれず、全員がかき終わる前に次の展開に進めてしまった。「時間がないから次に進めようね」と言ってしまった為に、子どもたちからは「先生、しっかりしてよ」などと言われた。事前にいろいろとシミュレーションをして頭に入れておけなかったことが反省点である。</p> <p>展開②での実際の間人コピー機（ゲーム）では、教師の指示が通っていなかったり、T、Tへの説明も曖昧であったりしたので、戸惑う場面もあったが、子どもたちがとても楽しそうに活動していた。反省点としては、平行線や三角形の作図の仕方をしっかり把握できていない子どもが多いことや、そのために作図に予想以上に時間がかかることなどを全く予期していなかったこと、見本を置く場所が狭くてグループ全員で見づかったこと、作業中の指示が通せなかったこと、などが挙げられる。</p> <p>時間を大幅にオーバーしてしまって、反省点ばかりの授業となってしまうが、子どもたちが楽しく活動していたので、ゲーム感覚の活動形式の授業は楽しい授業となることがわかったので、楽しく学べる授業の大切さを感じた。授業後に、各グループが作図した絵を、全て繋げて一枚の絵にして見せた時に子どもたちが「すごい」と喜んでくれたことも嬉しかった。おそらく自分たちが活動したことの達成感を一番感じた瞬間であると予想できる。また、実際に授業者が一人でこのような授業を行う際に、もっとルールを単純化することがスムーズに進める上で必要となると思った。最後に、私がこの授業において一番自信を持てることは、笑顔で子どもたちと授業をすることができたことである。</p>
---	--

1	12月3日 大田梨那・謝花香奈江・長岡有紀・山口和紀（1年次）
2	四角形を仲間わけしよう
3	四角形に様々な種類があること、およびその性質を知る。そしてそれらを分類する。
4	<p>導入 ①6種類の四角形の図形を見る。</p> <p>展開 ②グループで四角形を「台形の仲間・平行四辺形の仲間」にわけると。③グループで四角形の特徴を調べる。④黒板でまとめる。⑤ペアで仲間さがしゲームをする。</p> <p>まとめ ⑥四角形の分類についてまとめる。⑦感想を書く。</p>
5	前に出す大きな図形・児童に配る小さな図形・ワークシート・定規セット
6	<p>①まず、授業を行うことの難しさを痛感した。教壇に上がったときに子どもから一斉に視線を感じ、緊張し、頭が真白になるというのは正にこのことであるのだと分かった。教壇に立っている自分がひどく緊張しているために、子どもも固くなってしまっていた。また、ホワイトボードに向き合う形になってしまっていたので子どもが聞き取りづらそうにしていた。もう少し、視野を広く、子ども一人ひとりの様子がわかるように余裕を持つためにも、事前の授業計画をしっかりと立てたり、リハーサルをしたりと授業内容を完全に把握しておくべきだった。今回、私がこの授業を通して学んだことは、授業はいかに子どもの反応を考えておくかどうかで授業の進み方や雰囲気異なるということである。</p> <p>②今回の授業では4人の学生で行うということであったので事前にもっと集まって話し合いをして授業を作っていかなければならなかったと思った。いろいろなことを想定することによって授業のポイントや全体像がはっきりと見えてくるのではないかと思った。今回の授業は反省点の多いものとなった。そういった反省点を検討会でも見つけることができたからこれから同じような失敗を繰り返すことなくやっていければと思う。</p> <p>③「難しい授業」と先輩に言われていて、前日の模擬授業でその難しさにやっと気づいた</p>

けど、手直しすることも出来ずに本番を迎えてしまいました。授業は4人で交代してやり、自分の番ではないときは机間巡視をして子ども達の状況をつかむつもりでしたが、なにを見たらいいのかわからず、先輩が投げしてくれたヒントも拾うことが出来ませんでした。教壇に立って話をするときも、子ども達を見ているつもりなのに全然見えていなくて、「失敗した…」と思いました。何をしゃべるかを細かく決めておいて、自分の中でもっとしっかりまとめておくべきでした。子ども達の顔はあまり覚えていませんが、あのときの厳しい雰囲気は覚えています。反省会でも出たように、難しい授業であっても工夫次第で楽しい授業に出来るはずです。教材研究、指導案検討が足りなかったと思いました。

④授業内容が小学4年生には、難しかったと思う。／前日に何度もシミュレーションして、どのように説明したら、わかりやすく伝えることができるかを夜遅くまで考えたが、授業では頭が真っ白になってしまった。そのため、説明がぐちゃぐちゃになってしまった。児童もただ説明の意味がわからず、聞いているだけになっている状況になってしまったと思う。授業の流れはよかった、と思う。しかし、この内容を1時間で説明する、ということがつめこみすぎたのではないかと考えられる。また、それだけでなく、説明や、個人・グループでの作業、配布プリントを児童がわかりやすい、楽しめるようにさらに工夫すればよかったと反省している。黒板の板書もわかりやすいように図を小さくする、ホワイトボードを活用するなどの工夫が必要であったと思う。／授業を検討していくうちに、この授業が思っていた以上にとっても難しいと思った。私は、授業の内容を児童が全部理解してくれることが理想だと思うが、この授業ではそれが難しいため、ほんの少しでもわかってくれたら、良いと思っていた。児童が書いた授業後の感想を読むと、「わかった」や「ゲームは楽しかった」ということがたくさん書かれていて、よかったと思った。

1	12月11日 當間嗣貴（3年次）
2	石とりゲーム
3	石とりゲームの必勝法を考え、それを言葉で表現することができる。
4	<p>導 入 ①石とりゲームのルール確認。</p> <p>展 開 ②2人1組になって、対戦する。③グループになり、石とりゲームの必勝法を石の数を増やしながらか段階的に考える。④考えた必勝法で教師と対戦する。⑤考えた必勝法を発表する。</p> <p>まとめ ⑥必勝法をまとめる。</p>
5	ルール表・掲示用の石・ホワイトボード・マグネット（石がわり）
6	<p>前回の国語の反省を踏まえ、導入でのルール説明は児童との掛け合いの中で行った。そうすると、児童が集中しているのがひしひしと伝わり、活動を与えることの大切さを改めて感じた。そのおかげかルールに関してはほぼ問題なく伝わり、後の活動がスムーズに進む大きな要因となった。</p> <p>必勝法を考える場面では、石の数を3個→4個→5個と段々と増やしながらか考えさせることで、寄り道しながらも核心にせまることが出来ていたので良かった。ただ、必勝法を発表し練り上げる場面では、授業の目標を達成するまでにはいかなかったと思う。反省会でも出たが、より洗練された必勝法にするためにも、各グループの必勝法を擦り合わせすることは必要であった。練り上げの部分で深められなければ、今回やった内容はただの遊びで終わってしまうだけに本当に勿体なかったと思う。</p> <p>目標を達成するには、「どのような手立てが必要なのか」を見極める力を養っていかないといけないと強く感じた授業だった。</p>

1	12月17日 知花麻由子（2年次）
2	もん切り遊びをしてみよう！
3	線対称な図形の対称軸を見出すことができるようになる。
4	導入 ①教師の提示した例を見て、もん切遊びについて知る。 展開 ②もん切遊びで作れる形とその作り方を、具体物を使って考える。③グループごとに考えたことを発表する。④実際にもん切遊びをする。 まとめ ⑤日常には、もん切遊びで作れる形がたくさんあることを知る。
5	例示用の模型・はさみ・折り紙・模型・写真やイラスト
6	自分のイメージ通りの導入になってとても安心して授業を始めることができた。しかし、もん切遊びを紹介する際に穴埋めをさせるつもりが自分で答えをばらしてしまい、少し焦った。展開部分で使った模型の色や枚数など、気が回らなかったところが多かったが、具体物を用意していると子どもたちの食いつきが非常にいいことが分かった。同様に、実際にはさみを使って作業する場面では子どもたちの笑顔をたくさん見られて嬉しかった。 また、最後にはよく目にする例を紹介するときにも子どもたちの反応が良かったように思ったのとホワイトボードが色鮮やかになったのとで泣きそうになった。 授業の準備を早い段階ではじめていたおかげで、時間的には余裕をもって臨めたのが良かったと思う。反省はととても残るが、非常にいい経験になった。

【講評】 今回の七つの授業を算数の4領域で見ると、「量と測定」が1種類、「図形」が3種類、「数量関係」が3種類で、「数と計算」に対応する授業がなかった。「数と計算」のような基礎的な技能は繰り返し学習で身につくものであり、コックさん学校のような体験的な学習にはなかなかすぐわかない。過去には世話役が学生に領域を意識させ、果敢にもその領域に取り組んだ学生もあったが、今回はあえて領域の均衡を学生に求めなかった。

コックさん学校の授業は何らかのゲーム（遊び・活動）を通して行われる。今回の授業を授業内で行われたゲームで見ると、過去の授業実践例から取材したものが二つ（『はやく数える』『四角形の仲間分け』）、既存のパズルゲームが二つ（『積み木パズル』『石取りゲーム』）、オリジナルが二つ（『言葉探しゲーム（座標）』『人間コピー機』）、日本文化からの取材が一つ（『紋切り遊び』）である。その内容も出自もバラエティ豊かで魅力的である。

特に注目したいのが、「紋切り型」という言葉の語源になった、江戸文化の『紋切り遊び』である。授業者の日本文化に対するこだわりもあろうが、授業者が持ち得た情報を授業に結びつけようとする姿勢が素晴らしい。現場では、このような

取り組みから教科を横断する活動が生まれてくるのではないだろうか。児童は江戸の紋切り遊びを楽しみ、同時に図形の対称性についても学んだ。

オリジナルゲームは、授業目標（「座標」「作図」）に沿ってゲームが構築されている。この場合は先例がないので、ゲームの作業量の調整が難しい。その点『言葉探しゲーム』は授業者がコックさん学校に3回目の参加であり、これまでの経験を踏まえてとてもうまくできた。一方の『人間コピー機』は、やはり作業量の調整に失敗し、授業者が満足できる授業はできなかった。しかし皆で作図した図をあわせて大きな絵を完成させ、児童達を感動させることができた。この授業者が考案したゲームは、十分魅力的だったのである。

試行錯誤を繰り返して思考型パズルゲームを解く過程は、思考力を養成する算数的活動である。しかしパズルを授業で扱うには、そのパズルのルールを児童に定着させることが大きな課題である。今回の二つの授業（『積み木パズル』『石取りゲーム』）ではその点が十分考慮されていた。それぞれが前回、あるいは去年度の授業の反省を踏まえ、改良を重ねた結果である。また解法をグループで共有する活動を通して、思考を言語化することも行われていた。

具体的にやりたい授業があって、コックさん学

校に参加した学生もいる。今回の二つの授業（『はやく数える』『四角形の仲間分け』）からわかったことは、教材研究の大切さである。当たり前のことではあるが、授業の表面的な動きだけをまねしても、やはりうまくいかない。2人の授業者はしっかり教材研究を行っていたが、授業にはもっと掘り下げた研究が必要であった。授業者はこのことが身にしみて理解でき、とても勉強になったと思う。それでも教具の見せ方やワークシートの工夫もあり、児童には大変評判がよかった。

II-5) 学校通信

初代からの恒例として、学務担当の学生が中心となり、毎週学校通信を児童に配布した。今年度

は「今日のテイクアウト」と題して毎回の授業の復習となる課題も掲載、これは昨年度まではなかった新アイデアである。2名の担当学生が熱心に取り組み、どの号も読み応えのある内容となっていた。卒業式のあとに臨時増刊号もあったので最終的に9号発刊されたが、そのうち2号分を本稿の末尾に添付する。

III) 「コックさん学校 2011」を振り返る

III-1) 学生のレポートより

後学期の期末試験期間に締め切りを設定し、参加学生にレポートを提出してもらった。問うた内容は、次のとおりである。

- Q 1) 「第5代コックさん学校」に参加した理由を教えてください。2度目以上の参加の学生は、もう一度やってみようと思った理由を教えてください。
- Q 2) 「第5代コックさん学校」の構成・設定（教員数や学年構成、児童募集対象校、児童数や対象学年、実施時期、実施期間、実施日時など）について、問題を感じたこと（別のやりかたがあったのではないかと思うこと）があれば、理由とともに教えてください。
- Q 3) 自分の授業担当回数について、多い・妥当・少ない、いずれだと感じますか。特に理由があれば、それも教えてください。
- Q 4) 「第5代コックさん学校」における自分自身の活動をふりかえって、プラスのイメージで記憶されていることを教えてください。
- Q 5) 「第5代コックさん学校」における自分自身の活動をふりかえって、マイナスのイメージで記憶されていることを教えてください。
- Q 6) 「第5代コックさん学校」の活動を通して、あなたは成長できましたか？できたと感じる学生は、どのような面で成長したかを教えてください。
- Q 7) 「コックさん学校」の存在（今後も継続する？しない？）についての率直な意見を聞かせてください。
- Q 8) 「コックさん学校」に改善すべき点があれば、教えてください。具体的な対応策があれば、それも書いてください。
- Q 9) 来年度も「コックさん学校」が継続され、あなたは参加する意思があると想定してください。参加するにあたって不都合に思われること、あるいは参加するうえで必要な条件があるかどうか、1学年上がった自分を想像して、わたしたち世話役教員に対する助言として、お願いします。
- Q 10) 「コックさん学校」の世話役を務めている学部教員2名に対してメッセージ・意見などがあれば、自由にどうぞ。
- Q 11) 「第5代コックさん学校」の学校運営を終えた現在の感想や意見など率直な思いを、自由にどうぞ。

更なる改善のための反省も大切だが、紙幅の関係上、ここでは取り組みの意義に関わるQ 6・Q

7・Q 11のみ、学生が書いた原文のまま紹介する。末尾のカッコ内は学年である。

Q 6 (自分は成長したか?)

- ・最高学年ということで、経営に必要な考え方や先を見通さなければいけないなど、責任が増えたことで、見えなかったことが見えてきました。また、教材研究に関しても、自分では気づかなかったポイントに気づき自分か行いたかった授業に近づく為のヒントを得ることが出来ました。(3)
- ・やはり、「子どもに目を向ける」と言うことができるようになったという点で、成長できたのではないかと考えました。前よりも自分自身に余裕をもって子どもたちと接することができました。(3)
- ・授業だけでなく、それ以外の雑務についても見通しを少しはもって行動できるようになれたと思う。／子供たちとの関わり。(3)
- ・私はコックさんに参加して成長することができました。他学年・他学科の人たちとコミュニケーションをとることが少しできるようになり、子どもたちとは積極的に交流することができるようになりました。また、一人で授業を考えなくてはならず、授業を行う為に何度も検討することで授業づくりの難しさや大切さがわかりました。(2)
- ・「できた」＝一つの授業をやり遂げて、少しだけ自分に自信が付いた。／授業観察や指導案検討をするときの視点がわかってきた。(2)
- ・授業を作るうえでの視点(子供にどういう力をつけたいのか、この活動の意味は何かなど)を養うことができた。／教具の大切さを実感した。(2)
- ・成長できました。何より1つの授業をやり遂げたことが大きな成長だと思います。(2)
- ・一人で授業をやりきってみて度胸がついたと感じる。教育実習に対しての不安も多少なくなった。(2)
- ・当たり前のことだけれど、分からないことは自分からしっかり聞いたり、自分から行動していくこと。／授業の組み立て方や、教材研究への取り組み方。／他の人と協力して1つの授業を作っていくことでより深い授業になること。／子どもたちとの接し方。／授業で子どもたちを注目させたり、活動をスムーズにこなすための技術。／学校の成り立ちについて。(2)
- ・教職体験でどのように授業観察すればよいのかがなんとなくわかるようになった。(1)
- ・授業を行うためにたくさんの準備が必要であると学べたこと。(1)
- ・成長できたと思います。授業を作ることの大変さや難しさを知ることが出来ました。(1)
- ・成長できたと思います。少しではありますが、自分から積極的にコミュニケーションがとれたと思います。(1)
- ・学校運営をしていく中で、周りの動きを見たり、足りないところを見つけるなど視野が広がった。(1)
- ・成長出来たと感じています。授業の楽しさや厳しさ、難しさを知ることができました。また子ども達にどう接していけば良いのかも分かってきました。(1)
- ・とても成長できたと思います。先輩達の児童に対する態度などから、どのように距離をとったらいいのかが学ぶことが出来たかなと思います。また、授業におけるコツなどを吸収できたと思います。(1)
- ・以前より人前で話す力が身についた。(1)

Q 7 (コックさん学校の存在意義)

- ・通年で動くので、確かに負担は大きいと思います。さらに、経験者が少ない・最高学年の学生の人数が少ないという条件も大変なのかなと思います。ただ、それでも最終的にはそれも学びで、教師になればこれが一年中になるので、コックさん学校の存在はとても大きなものだと思います。なので、今後も学生のためにはあった方がいいのかなと思います。(3)
- ・教育実習以前にこのような実際に授業をしたり、このような形で子どもたちとかわることができる場というのは少なく、貴重であると考えるので、ぜひ継続して行ってほしいと考えます。(3)
- ・とても実践的な授業であるので、継続するべきだと思う。また、学校運営を行うことで、通常の授業では得られない経験も出来ることもポイントだと思う。(3)
- ・コックさん学校に参加することは、特に1・2年次にとって、自分で授業を考え実際に授業を行い、子

- どもたちと交流できる、貴重な体験であり、他の学生よりも経験値を積んで自身に繋がる機会になるので、今後も継続してほしいと思います。(2)
- ・貴重な体験が得られるからぜひ継続してほしい。(2)
 - ・必修科目とは別に取らなければならないし、授業時間外での活動など普通の人(コックさんを取らない人)と比べると負担は大きくなるけど、その分、それ以上に得るものが大きいと思うのでぜひ継続してほしい。実習前にこれだけ児童と関わって、さらに授業作り(指導案作成・検討会)の経験が積めるのはコックさん学校しかないと思う!(2)
 - ・ぜひ、継続してほしいです。実習に入る前に授業の感触を確かめられるのはコックさんのような場だけだと思ったり、そのほかにも教師の様々な仕事に触れることもとても大きなことだと思います。あと、私が2回参加して一番感じるのは教職系の講義で実践の映像などが流れたとき、自然にメモを取るようになっていたり、教職体験などで授業観察をすることのありがたみを他の人より感じているのではないかということです。授業をするだけなら塾でもできるかもしれないけど、塾では指導案の検討会をしないし、通信も作らないと思います。コックさん学校で授業を作り、子どもの動かし方を何度も試行錯誤していることは本当に貴重だと思います。なので、一人でも多くの学生がそのような経験をしてほしいと思います。(2)
 - ・下級生が先輩から刺激を受けるという意味でとてもよい企画だと思う。今後も継続した方がよいと思う。(2)
 - ・私たち学生にとっても、コックさん学校に参加してくれた子ども達にとっても、他ではなかなかできないとても貴重な体験ができたと思うので、他の学生にもこういう機会を残すためにも継続してほしいです。(2)
 - ・負担は大きいと思うが、貴重な体験が得られるから継続してほしい。(1)
 - ・継続する。児童も学生コックさんから得られることはたくさんあると思う。(1)
 - ・上の例に書いてある通りに、コックさん学校は普通の学校とはちょっと違うし、自分のように将来小学校の先生になる予定ではない人や子ども達と触れ合う機会が少ない1年次にとって、とても貴重な体験が出来る場なので、継続してほしいです。(1)
 - ・今後も継続してほしいと思います。このような体験はできないので、ぜひ続けてほしいです。(1)
 - ・先輩方から意見をもらい授業を作り上げたり、様々な学年の先輩方の授業様子を見たり、他ではなかなかできない貴重な体験ができるので、ぜひ継続してほしい。(1)
 - ・継続して欲しいです。校長先生がいたり、本当の学校みたいで貴重な体験が出来るからです。(1)
 - ・継続してほしいです。子どもと接することは普通の授業からでは学ぶことのできないことがたくさんあるので、これからも続けてほしいです。(1)
 - ・とても良い経験になるから今後もやったほうが良いと思う。(1)

Q 11 (活動を終えての所感)

- ・最高学年として、うまく運営できずに迷惑をかけました。本当に申し訳なかったなと痛感しています。今回のコックさん学校は授業で学ぶこともありましたが、それよりも学校運営・企画力という面で反省・学ぶことができました。ありがとうございました。(3)
- ・本当に今回はご迷惑をおかけしました。これからもコックさん学校での経験を糧に、より良い教師を目指して頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。(3)
- ・最初は3年次の少なさに不安と負担を感じ、正直きついと思う時もありましたが、終わってみると「やっぱり参加して良かった」と思う自分がいました。やはりそれがコックさんの凄いところであり、子供と実際に関わるからこそ生まれるものだと思います。ですので、このような貴重な体験ができるコックさん学校が、来期も継続されることを期待しています。(3)
- ・最初は、今年は経験者が少なく、そして一人での授業ということで不安ばかりでしたが、無事に終える

ことができたので、とても安心しています。初めての授業という人も多い中、みんなが素敵な授業をしていました。いろいろなことが学べて、いろいろな考え方を知って、楽しかったです。しかし、私自身の授業について私は失敗したなどと思っているので、悔しい気持ちがあり、いつかまた、この授業の同じものをリベンジで成功させたいと思います。(2)

- ・今回のコックさん学校を振り返ってみて、楽しかったこともきつかったこともあります。コックさん学校の経験全てが教員になる上で自分の貴重な財産になったように思えます。(2)
- ・「やっと終わった」という気持ちと「もう終わってしまった」という気持ちが混ざった感じです。コックさんは毎週水曜1限に集まるので朝起きるのが辛かったり、昼休みも集まることあって、授業と授業の移動がバタバタしてすごく忙しい毎日を過ごしていたなあと、今振り返ってみて思います。レポートや中間試験と並行して仕上げなければならない指導案や教具作りがあって、そのときは正直「こんなに追い込まれるならやらなければよかった」と思ったときもありました。指導案も自分の中では完成した！と書いていてもいざ検討会に出してみると穴があったり、自分でも説明できない部分があったりと、授業前にどんどん自信がなくなっていました。それでも「ダメで元々！できることを精一杯やっただんどんダメ出ししてもらおう！」という気持ちで授業準備に取り組みました。その結果、まだまだ反省点はあるものの、去年とは大きく成長した自分を感じることができたし、子どもたちの反応も自分が想定していたものよりはるかに良かったので「やっぱりやって良かった」と実感しました。次回のコックさんをやるかどうかはまだ決めきれていませんが「またやりたい」という気持ちはあります。もし次回参加することになったらまた1年間、よろしくお願いたします(^o^)(2)
- ・本当に本当に楽しかったです。計画段階ではしんどい時もあったけど、やっぱり子どもたちや仲間の笑顔を見るとうれしいです。絶対教師になってやるぞ！という気持ちにもなるので、コックさん学校大好きです。(2)
- ・別の設問でも書きましたが教育実習もなんとかやれそうだという自信につながりました。しかし、悔しいという気持ちもあるのでリベンジしたいのですが忙しさに追われるのがとても怖いです。(2)
- ・コックさん学校では先生方や先輩方、他の学生からの意見や気遣いから本当にたくさんのことを学ぶことができました。実際に子ども達を目の前にして授業をおこなったり、イベントをしたりすることは初めてだったので、分からない事だらけで戸惑うことも多くあり、かなり緊張もしましたが、みなさんにとっても助けてもらえたことでなんとかやりきることができたと思っています。本当に感謝しています。コックさん学校では、やり遂げたこともあります。自分の課題もたくさん発見できたので、いろんな部分で自分自身成長したと強く実感しています。コックさん学校に参加して本当に良かったです。(2)
- ・想像以上に自分が動けていなかったで、悔しい。再びチャレンジしてみたいが、来年は1人で授業を行わなくてはならないのだと考えると続けられるかどうか不安である。(1)
- ・コックさんの一員としてやってきたことをこれからの学生生活でいかしていければと思います。(1)
- ・誰よりも多く失敗して、ダメダメな先生だったけど、今のうちに自分の力を知ることが出来たし、いろんな授業も見られてとても良かったです。コックさん学校に参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。(1)
- ・思っていた以上に授業の検討がすごく大変でした。でも、子供たちと触れ合えたことや、授業というなかなかできない貴重な体験ができ、参加して本当に良かったと思っています。来年もぜひやりたいです。(1)
- ・コックさん学校に参加して、授業づくりの大変さを知りました。また、実際に授業をやってみることで少し自信にもなり、これからさらに勉強してスキルを磨いていきたいという思いをもつようになりました。ぜひ、来年度も参加したいと思います。(1)
- ・高校生の頃から大学に入ったらコックさんに参加したいと考えており、今回参加できて凄く嬉しいです。

初めて小学生と「教師」という立場から接し、難しさやまた楽しさが肌で感じることができました。また来年も参加して今回の反省を生かしたいです。(1)

- ・コックさん学校が始まってから、指導案やほかの準備などで忙しくなってきた、正直しんどいなどおもうこともありました。しかし、子どもの姿を見て、すごくやりがいを感じ、授業が終わると、またコックさん学校やりたいなと毎回思いました。本当に楽しかったです。たくさんのことを学ぶことができ、教師になるために、もっと勉強したいと思いました。コックさん学校に参加してよかったです。(1)
- ・無事に終わってホッとしている反面、もう終わったのかという寂しい気持ちがあるので、また来年度もやりたいと思った。(1)

Ⅲ—2) 保護者アンケートより

こちらも恒例であるが、卒業式の前の回に参加児童の保護者にアンケートを配布し、卒業式で回

収するようにしている。問うた内容を簡略化して示すと、次のとおりである。

- Q 1 (記述) 児童が「コックさん学校」に参加するに至った動機。
- Q 2 (選択) 開校日(土曜の午前)について。
- Q 3 (選択) 回数(全8日・各2時間授業)について。
- Q 4 (選択) 期間(今年は11～12月)について。
- Q 5 (選択) 「コックさん学校」に対する児童の反応。
- Q 6 (選択) 「コックさん学校通信」について。
- Q 7 (選択) 「コックさん学校」の「学び」の目的をどこに置くべきか。
- Q 8 (選択) 「コックさん学校」参加児童の適切な学年。
- Q 9 (記述) 「コックさん学校」への通学について。
- Q 10 (記述) 「コックさん学校」参加児童を複数の学校から募集することについて。
- Q 11 (記述) 「コックさん学校」に対する意見や要望。
- Q 12 (記述) 琉球大学教育学部の教員や学生に期待したいこと。

紙幅の関係上、Q 11 のみ、保護者の回答を列挙したい。厳しい意見には△を、好評を示す意見には◎を、付した(もちろん△が「好評でない」ことを示すわけではない)。

△何回か授業を見せてもらったが、それぞれ工夫がされていてすばらしかった。ただ、中には(例えば1円玉を数える課題→どの道具を選ぶかで正解に到達できるか決まるの?それとも、どれでも工夫すればいいのか?疑問でした。ある程度の解答方法も教えてほしいな～。)考えさせることが目的?等、すっきりしない終わり方もあったかなと思いました。あと、国語で「ここは板書すればもっと記憶に残るのに～。もったいない」等々。

△その都度、参観している親へのアンケートをとってはいかがですか。保護者の方が、きっと、授業に対して要求が高いと思います。

△時々、ホワイトボードの字が小さい先生がいたので、気になりました。

◎琉附小や琉大にあこがれるのでは? 私も教室に入り、ちょっとドキドキしながら特別に思いました。

◎初めてコックさん学校に参加させて(習わせてみて)、とても良かったと思いました。

◎実体験を通して勉強に興味をもたず、大変すばらしいと思います。今後も続いていきますように。

◎今回のコックさん学校への参加で、普段経験できなかったことを体験し、楽しくコックさん学校へ通う我が子を見て、本当に良かったと思う。これからも続けてほしいです。

◎よい企画ありがとうございます。

- ◎初めての参加で子供も私も不安でしたが、子供がとても楽しそうに話をしてくれて、土曜日を心待ちにしているのを見て、すごく感謝しています。
- ◎初めて知った時は、「へえ～こんなのがあるんだ～」とびっくりしましたが、子供自身から、勉強したいし、たのしそうだから、行きたいと言っていたので、いい経験をさせてもらったと思います。他の科目もやってほしかった。
- ◎最初は「イヤ」と言っていました。回を重ねるごとに楽しくなり、迎えも「ゆっくりきて」と言うようになりました。楽しく勉強させてもらい、ありがとうございました。
- ◎コックさん授業、子供達がお腹いっぱい完食、満足、ご馳走様（ハート）です。ありがとうございました。
- ◎先生方が非常に熱意を持って授業をくみだてくださってるな、教材研究もすごく綿密、ていねいにつくって頂き、とても配慮しながらこのコックさん学校を開校したんだな、と、授業風景や通信内容を見て、つくづく感じました。子供を参加させて本当によかったです。
- ◎「いただきまーす」とのあいさつをして、最後に「ごちそうさまでした」とあいさつすると、子どもが嬉しそうに話していました。とてもいい企画だと思います。
- ◎参加させて頂いて本当にありがとうございました。
- ◎楽しみながら勉強に親しむ機会を作って頂き、ありがとうございました。このまま続けて行って欲しいです。
- ◎今後も続けてほしい。
- ◎ぜひ、今後もコックさん学校を続けていただいて、勉強の楽しさを教えてほしいです。学習塾、学校とは違う場での学習、とてもいいと思います。萩野先生、山城先生をはじめ、学生の皆さん、本当にありがとうございます！！

Ⅲ-3) レポートとアンケートからみえること

繰り返しになるが、本稿は「コックさん学校」の存在意義を主張するものなので、学生の発言も保護者の発言も、多くプラス寄りのものを掲げている。が、マイナス寄りの発言を考慮してもやはりこの取り組みには多くの意義があるものと考えられる。基本的には、学生の教育実践力を育むのがねらいであるが、児童にも好影響があったようで、「コックさん学校2011」への協力依頼をした折に、宜野湾市立長田小学校の教務担当の先生から「今年も誘っていただいて嬉しい。コックさん学校に参加した子どもは、その後伸びているという報告がある」との言葉をいただいている。

そして、取り組みの中心的な課題である「学生の教育実践力の向上」については、毎年の教育学部附属小学校での公開授業者を「コックさん学校」の参加学生が担う割合が高く、それぞれに課題を残しながらも実習生としては高い授業力を見せていること、また、平成24年度沖縄県公立学校教員候補者選考試験において「コックさん学校」経験者から小学校の現役合格者を4名出したことな

どに、暗示的ないしは明示的に効果のほどが表れている。

こういった児童・学生への好影響を期待させる点で、学生と保護者の発言は頼もしい。

Ⅳ) おわりに―「コックさん学校」の成果と今後―

ここではまず、コックさん学校の活動の様子を描写してみたい。

コックさん学校では、授業前に行われる指導案検討会と授業後に行われる反省会がとても重要であり、多大な時間が割り当てられる。指導案は何回かの検討会を経て修正を重ね、その間、児童の反応予測、目的に沿った授業内活動内容の調整、児童に合わせた活動量の加減、児童の適切な配置、ワークシートや教具の適正化等が話し合われる。毎年コックさん学校の活動内容を分散するために夏休みからの指導案検討会が提案されるが、なかなか実現できない。指導案検討会で話し合われる内容は、ほとんどが児童観察を前提としているので、実際に開校してからではないとうまくいかな

いのかもしれない。

検討会の様子を授業『石取りゲーム』を例として紹介する。この検討会ではまずコックさんメンバー全員で石取りゲームのルールが共有された。次に授業目標が質され、「石取りゲームの必勝法を考え、それを言葉に表現することが出来る」とこととされた。そして児童の思考過程をシミュレートして、最初は7個であった石の数を、授業の進行にしたがって3個から順に5個まで増やすこととし、7個の場合を発展的課題とした。また児童に魅力的なゲームになるように、必勝法を共有した児童グループが特別なTT(コックさんメンバー)と対戦して倒すことを、ゲームの最終目標として設定した。さらに授業に取り残される児童が出ないようにグループ分けを工夫し、必勝法の考察が自然に促されるようにワークシートの考察も行われた。このように検討会を重ねる間に、少なくとも3回は指導案を書き換えている。

授業は実際に児童を対象に行われる。学生は指導案を作成するときに児童の反応をある程度予測するが、実際の反応は学生達にとって意外なものであることが多く、それが実践的な体験として残る。また学生が実際に児童とふれあうことで、自分自身の意外な一面が見えることもあり、教員を志すモチベーションも上がる。

授業後に行われる反省会では、メンバー全員がその授業で良かったと思う点と問題点を述べていく。例年初めて参加する学生はその真剣な雰囲気気後れし、最初はこの場で上手に発言できないものだが、今年度の新規学生は最初から鋭い指摘をすることが出来ていた。彼らは高い意識を持ってコックさん学校に臨んでいたことがわかる。

途中で議論を挟み、全員が発言し終えるまではかなりの時間を要する。1日が終わる頃はとてへとへとになるが、授業者やこれに参加したメンバーは、授業を観察するときの着眼点や、授業の振り返り方、授業作りのノウハウを互いに学びとるのである。

検討会、授業、反省会のサイクルをクロスしながら計14回、その他にも学校経営や学校行事などをこなすので、学生への負担は相当なものである。それでも学生達が確かな手応えを感じ、しっかりと成長していることは、アンケートの結果と

リピート率の高さからもはっきりとうかがえる。

コックさん学校の開催時期は3年生の教育実習後である。3年生は教育実習を通して学んだ附属学校での授業スタイルを1・2年生に伝えることも、自分たちの役割であると認識している。それは概ね合理的で児童にとって適切であり、1・2年生は教育実習前にそれらを学ぶことによって、実習に対する自信と心構えが出来る。3年生は逆に、1・2年生によって枠にとらわれない視点に気づかされ、自分たちが学んできたものを批判的に捉え直すきっかけを得ることが出来る。

以上のことから、コックさん学校はそれに参加した学生に教員を志す高いモチベーションと実践的な体験を与え、授業スキルの着実な向上を促すことがわかる。今後もやる気がある学生に対して、この実践的な事業が継続していくことが望ましいと考える。

次に参加児童について述べる。現学習指導要領では、思考力、判断力、表現力を重視し、知識・技能の発見・活用を図る学習活動を一層充実させることに重点が置かれている。その点はコックさん学校の基本的な理念「楽しみながらも、今まで習ってきた国語と算数の知識を確認し、それを応用する力を育てていく」に合致する。また、ゲームを通して楽しみながら学ぶことによって、教科に対する苦手意識も薄れていく。実際学校終盤に行った保護者アンケートに、「子どもが苦手科目を好きになった」という回答があった。

その他このアンケートでは、『「コックさん学校」では児童の「学び」の目的をどこに置くべきだと思いますか。』との問に対して、『遊びの要素を取り入れて楽しく学ぶ。』を選んだ回答が、31名中23名もあった。コックさん学校のような活動が地域に求められているのだろう。

また教員になるために真剣に取り組んでいる学生達の姿は、児童にはあこがれの対象として映るようで、コックさん学校に参加することによって、何人かの児童の将来の夢が「先生になること」に変わった。

このようにコックさん学校に参加した児童にも、コックさん学校は良い影響を与えている。教育学部の地域貢献の一環としても、この事業は継続すべきだと考える。

付記：

本稿のⅠ（はじめに）は萩野が、Ⅳ（おわりに）は山城が、それぞれ執筆した。Ⅱ・Ⅲについては、両名がそれぞれに把握しているデータや情報をつき合わせて共同執筆した。

注：

- (1) 『平成19年度 文部科学省教員養成改革モデル事業（教職実践演習の試行）報告書—事業タイトル：教員養成最終段階におけるプラクティススクールによる総合的力量的形成とその明示的な確認に資する事業—』（平成20年3月、小林稔・岩政輝男・會澤卓司他）に全容が示されている。
- (2) 『平成20年度 質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）報告書—事業名称：模擬学校による教育実践力向上モデルの開発』（平成21年3月、小林稔・岩政輝男・中村透他）および『平成21・22年度 質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）報告書—事業名称：模擬学校による教育実践力向上モデルの開発』（平成23年3月発行、小林稔・岩政輝男・中村透他）に全容が示されている。
- (3) 平成21年度までの三ヶ年の試行により、「コックさん学校」は残念ながら「教職実践演習」には向かない取り組みであることを実感し、22年度からは参加学生のターゲットを3年次生以下に絞った。その根拠については、注（2）報告書の27～28頁で、萩野・山城がそれぞれの観点から述べている。

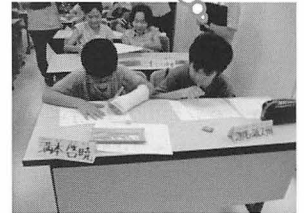
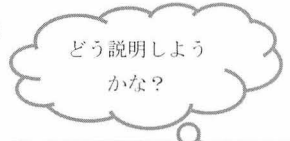
サンサン☀️ま～さん

～コックさん学校通信～

平成23年
11月26日(土)
No.4
担当☆大城 孝太

●○先週の授業の様子○●

第三回のコックさん学校の一時間目は、裕司先生の「コック語辞典を作ろう!」でした。この授業では、いつも皆が使っている言葉を自分で説明してみよう!、ということをしました。授業の最初は、裕司先生が言葉の説明する時のルールを皆に教えました。先生の説明を聞くとき、皆はとても静かで、集中して聞いていました。説明を聞いた後は、さっそくグループで作業に取り組みました。最初はみんななかなか作業が進まず苦勞していたのですが、だんだん慣れてきて、どんどん作業が進みました。慣れてくると、言葉の説明を考える時間が早くなり、たくさんの言葉の説明を考え、なんと9個の言葉の意味を考えたグループもありました! これには先生たちもビックリ!!皆さん本当に良くがんばりました(´0´)言葉の説明を考え後は、実際に皆に説明して、どの言葉が分かるかのクイズをしました。いくつかのグループにやってもらいましたが、どのグループもとても分かりやすく、しっかりとした説明でした。この授業は本当に盛り上がっていて、「もっとほかの言葉の説明も考えたい!」という児童もいました。それをさいて裕司先生も喜んでいました。この授業で説明した言葉は裕司先生がまとめて、辞典にするそうなので楽しみにしててね!



楽しんでます!

二時間目の授業は、安宏先生の「言葉で位置をあらわそう!」でした。この授業は、授業をする前に皆に千ヶツが配られ、その千ヶツで自分の席を見つける。ということをしました。千ヶツにはこの授業で習う「ざひょう」を使ったので、少し難しいかな?と置いていたら皆出来ていたので驚きました!安宏先生が「どうやって自分の席みつけたの?」と聞くと、大城直也君が前に出て説明してくれました(´0´)

授業では、言葉当てゲームをしました。言葉当てゲームとは、3文字の言葉を考えて、4×4のマスの好きなところに1文字ずつ入れます。そして、ざひょうを使って友達の文字が書いてありそうな場所を言っていきます。先に3つの言葉を探して、言葉を当てた人の勝ち。というゲームです。皆このゲームでとても盛り上がっていました。「やった一勝ったー!」とか「うわっ!負けたー!」などいろんな声が聞こえてきてとてもにぎやかでした。先生の終わりの合図があっても「もっとやりたい!」という児童がたくさんいました。



●○今日のメニュー○●

- ・ 1校時 国語 下地直子先生 「同音異義語と仲良くなろう」
同音異義語でしりとりをしました。
- ・ 2校時 算数 巽座若夏先生 「人間コピー機になろう！」
コンパスなどを使って図をコピーしました。

☆来週のメニュー☆

- ・ 1校時 国語 友利文香先生 「うちなーぐち」
- ・ 2校時 算数 謝花香奈江・長岡有紀・山口和紀・大田梨那先生 「四角形を仲間わけしよう！」

④来週の算数の時間も定規セットを持ってきてね！

♪今日のテイクアウト♪

ちゃんと覚えているかな？お家の人と挑戦してみてね


Q. コンパスの使い方にはどんなものがあったかな？授業を思い出して思いつくかぎり書いてみよう！

Q1. 「メジャー」の二つの意味を見つけよう！！

Q2. 同じ音でちがう意味をもつ言葉を探そう！

☆☆☆今日の感想☆☆☆ (先生へのメッセージもたくさん書いてね♪)

◆◆◆先生のコメント◆◆◆



サンサン☀️ま～さん

～コックさん学校通信～

平成23年
12月 17日(土)
No.7
担当☆當問 嗣貴

コックさん学校も残すところあと1回…

11月5日より始まったコックさん学校も、ついに残り1回になってしまいました。寂しいですね…最後にいい思い出ができるように、来週は普段以上にコックさん学校を楽しみましょうね♪それでは、先週の授業を振り返っていきたいと思います。

●○先週の授業の様子●○

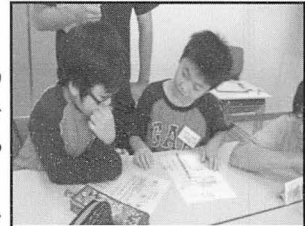
1時間目の国語の授業は、優希・未季・孝太・愛美先生の「銅」ってどう読むの?」でした。授業はまず、孝太先生から出された漢字の読みクイズから始まりました。出された漢字は「青・晴・清」の3つで、漢字が出た瞬間に沢山の手が挙がり、皆答えようと必死でした。代表で何人かのお友達に漢字の読み方を答えてもらった後は、愛美先生より新たな漢字の問題が!出されたのは「請」という漢字でした。まだ習ったことのない漢字だったので、最初は読めずに戸惑っていましたが、しばらくするとある事に気付いたお友達が!ある事とは、「全部の漢字に“青”



これに決～めた!

という漢字が入っている」という事でした。この発見をきっかけに、「請」も最初の3つと同じように「せい」と読む事に気が付きました。そのあとは、漢字クイズに出された漢字が形声文字[音を表す部分と意味を表す部分から出来る漢字]であることを教わり、形声文字を使ったコックさんババ抜きをやりました。同じ読み方をする漢字のペアをそろえられると、かわいいコックさんカードを貰えるということで、皆とても楽しそうにババ抜きをしていました。授業の最後は、今日の授業の名前「銅」ってどう読むの?」を皆で読みました。形声文字を勉強したことで、実はダジャレになっていたことを知った皆は、くすくすと笑っていました。

2時間目は、嗣貴先生の「石とりゲーム」という算数の授業でした。石とりゲームとは、7個の石を一列に並べて石を交互に取り合い、最後の石を取った人の勝ちというゲームです。授業の初めにこのゲームの説明を聞いた子ども達は、早速グループのお友達と対戦しました。教室のあちらこちらから「やったー」という喜びの声や、「あぁ～」という悔しがる声が聞こえ、皆が集中して石とりゲームをやっていることが伝わってきました。しばらく対戦した後に、嗣貴先生から「先攻だったら必ず勝てる必勝法がある」ことを伝えられると、今度はグループのメンバーで協力して必勝法を考えました。ああでもない、



どこの石を取ろうかな・・・



どうだ!孝太先生

こうでもない和相談を繰り返していくうちに、「真ん中の石をとる」ことが必勝法のポイントであると多くのグループが気が付きました。このポイントを基に、各グループで考えた必勝法を使い、コックさん学校の先生達と対戦をしました。先生達に勝って「どうだ!!」といわんばかりの子供たちの表情がとても印象的でした。

●○今日のメニュー○●

- ・ 1 校時 国語 新川大貴先生 「琉歌を楽しもう！」
琉歌を三線のリズムにのせて表現しました。
- ・ 2 校時 算数 知花麻由子先生 「紋切り遊びをしてみよう」
紋切りのやり方を教わり、色々な模様を作ることができました。

☆☆来週のメニュー☆☆(来週は卒業式です！皆来てね♪)

- ・ 1 校時 宮城安宏先生 「物語を作ってみよう！」
- ・ 2 校時 コックさん学校卒業式☆

♪今日のテイクアウト♪

麻由子先生から宿題

Q. 下のアルファベットに、ぴったり半分線を引いてみよう！

MAYU

大貴先生から宿題

Q. AとB、どっちが琉歌でしょうか？

B

沖縄の良さは
ひとつだけじゃない
海・空・キレイで
大好きです

A

しずかさや
岩にしみいる
セミの声

[答え]

☆☆☆今日の感想☆☆☆ (先生へのメッセージもたくさん書いてね♪)

Blank rounded rectangular box for student feedback.

◆◆◆先生のコメント◆◆◆

Large speech bubble for teacher comments.

